

6 高等部 I 課程研究班

ア 研究のねらい

I 課程の生徒達が卒業後豊かな自立をしていくためには高等部でどのような指導・支援が必要かを考えたときに、生徒が自分の意思を子供達なりの方法で、できるだけ自分から発信したり、家族や支援者とやり取りしたりする力を身につけることが重要だと考えた。

そこで本年度は、ASAやS-M社会生活能力検査の結果をもとに、自立するために必要な力の中でも特に「コミュニケーション力」や「日常生活を送る上で必要である具体的な力」に着目し、事例研究を行うこととする。

イ 研究の内容

各学年より対象生徒を一人ずつ抽出し、実態把握をしながら課題を見つけ、課題解決のための支援方法を各学年のメンバーで検討する。次に、具体的な指導・支援を行いながら、対象生徒の変容等を見ていく。記録をもとに、対象生徒への指導・支援の方法が妥当であったかを評価し、望ましい指導・支援方法は次年度へと引き継ぎ、工夫改善が必要と思われる指導・支援については、再度検討し、さらにより指導・支援方法を探る。

ウ 成果と課題

今年度は3つの事例に関して研究し、3つそれぞれの成果と課題をここに記す。

○高等部1年の事例：高等部1年男子

【ASA検査結果から見えてきた課題】

- ・ 自力では困難なことに直面した場合、自分から周囲に支援を求めることが難しい。
- ・ 必要な場面で、感謝やお礼の気持ちを言葉で伝えることが難しい場合がある。

【取り組み】

- ・ 支援が必要な場面での話型を示し（本人の目につくところに掲示）、繰り返すことでやり取りの仕方を習得させる。
- ・ 帰りの会で、自分から周囲へ支援を求めることができたかチェック表を用いながら振り返りをする。
- ・ ロールプレイング等を取り入れた具体的な伝え方の授業を実施する。

【成果と課題】

- やり取りの仕方を繰り返し行った場面では、スムーズに支援を求められるようになった。（トイレ後のシャツ入れ、更衣時のボタン外し、装具の着脱）
- 評価表のシールのランクを理解し、よりよい評価をもらいたいという気持ちで取り組めた。
- 授業直後は意識が高まり、自分から支援を求めることが多くなった。
- 普段と違う支援を求めたり、接することの少ない教師に支援を求めたりすることは難しい。
- 支援を求めたときに、教師が聞き返すと黙り込んでしまう。

○高等部2年の事例：高等部2年男子

【S-M社会生活能力検査結果から見えてきた課題】

- ・ 「自分の容姿に気を配り、場所や時にふさわしい服装をする」
- ・ 「ひもを結んだりほどいたりできる」
- ・ 「掃除機、洗たく機などの電気製品が使える」
- ・ 「必要に応じて電話がかけられる」

【取り組み】

- ・ 毎朝学校で鏡を見ながらひげ剃りをし、きれいに剃れていたらがんばりシールを貼る。
- ・ 朝の時間を使ってひも結びやスーパーの袋結びの練習をする。
- ・ 毎週金曜の5校時には洗たく機で自分の作業着等を洗濯する。
- ・ 自立活動の時間に電話の対応の練習を繰り返し行う。学級にかかってきた電話に出る練習にも取り組むなど日常的に取り組ませるようにする。

【成果と課題】

- 支援項目を絞り込むことにより、今どんな力が必要かを指導者が再認識し、焦点を絞って具体的な手立てを講じて支援に当たることができ、継続することで少しずつ身につけ、生徒自身も自信がついてきた。
- 卒業後のことを見据えると、学校でできるようになったことを家庭でいかに般化させるかが難しい面があり、とくにI課程の生徒にとっては家庭との連携が必須である。

○高等部3年の事例：高等部3年男子

【S-M社会生活能力検査結果と個別実習先で見えてきた課題】

- ・ 見通し（流れや活動内容の理解）をもち、集団で行動する力
- ・ 最後までやり遂げ、報告する力

【取り組み】

- ・ 給食指導を通して、配膳の流れを固定し、小集団の中でモデルとなる生徒と一緒に活動することで、活動⇒確認⇒報告の定着を図る。

【成果と課題】

- モデルとなる生徒と一緒に活動することで、個数や量などに気をつけながら配膳することができ、自信をもって報告することができるようになりつつある。
- 仕事の流れを固定したことで、自分の仕事として意識し、急いで支度をして配膳に取り掛かる姿が見られるようになってきた。
- 報告はできるようになったが、確認の際に揃っていないにもかかわらず報告してしまうことがあった。
⇒手立ての改善を図った。

7 高等部Ⅱ課程研究班

ア 研究のねらい

生活単元学習の年間指導計画を新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点で見直し、学部で共通理解を図る。

イ 研究の内容

- 生活単元学習の内容、指導上の配慮事項等についての共通理解
- 新学習指導要領に関する資料の共通理解
- 年間指導計画見直しのポイントの共通理解
- 系統を考えた単元・内容等の見直し
- 見直した年間指導計画の共通理解

ウ 成果と課題

<成果>

- 高等部の生活単元学習についての考え方（卒業後の生活を見据えた内容）を整理、共有することができた。
- 年計を見直したことで、生活単元学習の授業を通して生徒に身に付けさせたい力について考えることができた。
- 共通行事では、学年の段階に応じて系統を考えた目標、内容、指導の手立てを計画することができた。
- 学年間で共通理解を図り、1年生から3年生までの指導の流れを作ることができたので3年間を見通した指導ができる。
- 社会のニーズに合う内容も取り入れることができた。

<課題>

- 特別支援学校高等部の新学習指導要領が出ていない中での年計の見直しだったので、今後加筆修正が必要になってくるだろう。
- 年計の見直しは行ったが、内容等を十分に検討して深めることができなかった。
- 年計を基に指導者が「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を展開することが求められる。(年計を活用した授業実践)
- 授業を計画する際、学年で共通理解を図るための時間確保が必要である。
- 年度により生徒の実態等に差や変化があり、計画通りに進めない実情もある。

※参考文献

- 「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領」：文部科学省（2017）
- 「特別支援学校 学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」：文部科学省（2018）
- 「特別支援学校 教育課程編成資料 Q&A」：宮崎県教育委員会 特別支援教育室（2011）
- 「特別支援教育のアクティブ・ラーニング」：三浦光哉（2017）

8 高等部Ⅲ課程研究班

ア 研究のねらい

○ 高等部Ⅲ課程における教育課程の現状把握と授業形態の工夫

- ・ 仮説：高等部Ⅲ課程における、生徒の人との関わり等の課題に焦点を当て、その具体的事例の収集や有効指導方法を取り入れた授業づくり及び適切な評価を行うことで、現代の教育的ニーズに沿った指導支援の在り方が見えてくるのではないかと。
→高等部Ⅲ課程の道徳における「年間指導計画及び内容の見直し」を行う。

イ 研究の内容

(1) 生徒の人との関わり等の課題に関する具体的事例の収集

→ 7つの事例を取り上げ、分析を行った。具体的事例の中には、LINEやSNSなど、端末を利用して他者とコミュニケーションを行う中で、人間関係に乱れが生じたケースが多かった。

(2) 課題解決へ向けた具体的アプローチの検討

→ 宮崎法務少年支援センター訪問を行い、本校で取り上げた事例と類似したケースに対して、どのような支援・指導が行われているのかについてご教示頂いた。その内容を基に、研究班員で検討を行って行く中で、生徒に対する丁寧な聞き取りを通して実態把握を確実に行うこと、情報社会の中で、他者との人間関係のトラブルを防ぐために必要な常識（概念）を学習する機会を設ける必要があることが挙げられた。

(3) 授業の実施及び事後研究、生徒対象のアンケート実施

→ 研究班員で指導案検討を行い、授業（主題「情報社会での過ごし方」）を実施した。その後、生徒を対象としたアンケートを実施し、意識の変容及び学習内容の般化の様子について事後アセスメントを行った。アンケートに対する生徒の回答の中には、今回の学習内容を十分に理解し、今後の自らの日常生活に活かそうとする積極的な内容が多かった。

(4) 高等部2・3学年年間指導計画（道徳）の見直し

→ 現代の教育的ニーズ、宮崎法務少年支援センターでの具体的支援・指導方法、授業実施後の事後研究及びアンケート結果を踏まえ、高等部2・3学年年間指導計画（道徳）の見直しを行った。

(5) 次年度研究内容の検討

→ 次年度においては、今回見直された高等部2・3学年年間指導計画（道徳）を基に授業を実施し、学習内容の評価と改善を繰り返していきたい。また、「小学校低学年～中学校、内容項目の指導の観点」を基に、道徳別葉の見直しに取り組んでいきたい。

ウ 成果と課題

今回の研究を通して、幾つかの具体的事例を基に、高等部Ⅲ課程の道徳における教育的ニーズを確認することができた。その上で、高等部2・3学年年間指導計画（道徳）を見直し、年度ごとに変化する生徒や学級の実態に対して、柔軟に支援・指導法を選択することのできる指導内容を設定することができた。今後、より現代の教育的ニーズに沿った道徳の授業を通して、生徒の道徳的心情や実践力の向上が期待できるのではないだろうか。

一方で、高等部2学年及び3学年間における系統性及び発展性に関する繋がりがまだ充分ではないことが課題として挙げられている。次年度の研究の中で、授業の実施及び事後研究を通して、現代の教育的ニーズに沿った指導内容を系統的・発展的に設定していくことが必要となる。また、学習の評価について、評価基準表等の明確なものが設置されていないことも今後の課題として挙げられている。従って、「中学校学習指導要領」や「内容項目の指導の観点」等を参考に、評価基準表または観点別評価表等を作成し、評価の方法を統一していくことが必要である。次年度においては、評価方法について検討を行い、それを踏まえたうえで、授業実施及び事後評価へと取り組んでいきたい。さらに、「中学校学習指導要領」や「内容項目の指導の観点」等を参考にしながら、道徳別葉（道徳教科欄）の見直しを行い、指導の観点及び内容の整理に取り組んでいきたい。

※参考文献

- ・少年鑑別所のしおり ・中学校学習指導要領「内容項目の指導の観点」
- ・教育課程企画特別部会「論点整理」

高等部 年間指導計画		(3) 学年	(Ⅲ) 課程	教科名・領域名 (道徳)	年間指導時数	3 5			
指導目標 (つきたい力)		自他の生命を尊重する心を育てるとともに、他者とかかわり、地域社会の一員としてふさわしい行動を考え、実践しようとする気持ちや態度を養う。							
学期	月	単元 (題材)	単元 (題材) 目標	時数	学習活動内容 指導の手立て	授業形態	含まれる 教科名	学習指導要領 位置付け	
1	4	「新しい仲間とともに さあ新学期」	○自分の生活を見直し、望ましい生活習慣に改善しようとする意欲を高める。	3 5	○新年度を機に、自分の生活態度や習慣を振り返る。他者の生活を知るとともに、改善点や課題、目標に気づかせる。	一斉	国語 社会 職業 日常生活の指導 家庭 保健体育	1－(1) 望ましい生活習慣、 思慮・節約	
	5	「自己を知り、 仲間を知る」	○互いに信頼し、学び合うことで友情を深め、男女が仲良く協力し助け合う。		○他者の良さやがんばっていることを出し合い、紹介する。認め合うことの大切さを知らせ、友情を深める機会とする。			2－(4) 男女の理解・尊重	
	6	「現場実習を通して」	○時と場に応じた適切な言動を体験的に学習し、礼儀について理解を深める。		○学校生活や実習先での言葉遣いやマナーの違いを学び、考え方を深める。実習後にはお礼状等で、感謝の気持ちを伝える。			2－(1) 礼儀 (6) 感謝の心	
	7	「夏休みを有意義に ～節度のある生活～」	○望ましい生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直す。また家族及び社会の一員としての役割を持つ。		○生活習慣の乱れが及ぼす影響について知るとともに、自分の生活について振り返る。夏休み中の家事役割を自分で決める。			1－(1) 望ましい 生活習慣、思慮・節約 4－(6) 家族愛	
2	9	「2学期のはじまり」 「みんなの願う学級像」	○所属する集団における役割と責任を自覚し、より良い学級の在り方を考える。		○学級の委員会や係り活動等を通し、自分の役割や仕事内容を確認する。学級の雰囲気や良くなるため話し合い、考える。			4－(4) 役割と責任の自覚	
	10	「修学旅行を通して」	○集団活動に進んで参加し、自分の役割を自覚する。また、協力して主体的に役割を果たす。		○学級とは異なる集団での役割や、関係作りを通して主体的に活動し協力する態度を身につける。				2－(3) 信頼友情 4－(4) 役割と責任の自覚
	11	「自分らしく生きる」	○それぞれが持つ社会生活における困難さ(困っていること)に向き合い、自己の向上を図るとともに周囲に対する思いやりをもつ。		○それぞれの個性や特性についての理解を深めるとともに、自己の困りにも向き合い、よりよく生きることについて考える。				1－(5) 向上心・個性の伸長 2－(2) 思いやり
	12	「社会の一員として～ 選挙・投票の大切さ～」	○法や決まりの意義を理解し、遵守することの必要性を知る。		○選挙権についての学習や、模擬投票(人権学習)と関連性を持たせ、社会の一員としてその意義を理解する。				4－(1) 法やきまり・ 権利と義務
3	1	「私の夢・私の目標」	○年のはじめに目標を立てることで、努力する心構えや夢を実現させようとする心情をもつ。		○新しい年を迎え、気持ちも新たに「目標」を立てる。その目標と「夢」の実現のために努力しようとする心情を高めさせる。			1－(2) 希望・勇気・強い意志	
	2	「かけがえのない命」	○生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切にすることを育てる。		○命に関する資料をもとに、かけがえのない命であることに気づかせる。自他の命を大切にすることを育てる。			3－(1) 生命尊重	
	3								

高等部 年間指導計画		(3) 学年	(Ⅲ) 課程	教科名・領域名 (道 徳)	年間指導時数	35		
指導目標 (つきたい力)		自他の生命を尊重する心を育てるとともに、他者とかかわり、地域社会の一員としてふさわしい行動を考え、実践しようとする気持ちや態度を養う。						
学期	月	単元 (題材)	単元 (題材) 目標	時数	学 習 活 動 内 容 指 導 の 手 立 て	授業形態	含まれる教科名	学習指導要領位置付け
1	4	○社会人に必要なマナーについて考えよう。	○社会人に必要とされるマナーを自分の中で整理し、それを身に付けようとする。	35	○自分たちの行動と社会人に必要とされるマナーの違いを学び、考え方を深め、それを実践しようとする態度を身に付ける。	一斉	社会 職業 日常生活 の指導	1－(1) 望ましい生活習慣、 思慮・節制
	5	○自分たちの行動①	○自分たちの行動を振り返り、場に応じた振舞いについて考えることができる。		○自分たちの行動を振り返る機会をもたせるようにして、今後の行動をどのようにしていけばよいか、考える機会をもつ。			1の(6) 向上心 個性伸長
	6	○よりよい人間関係を築くために①	○いろいろなもの見方や考え方について知り、相手の個性や立場を尊重する態度を身に付ける。		○SNSについての基本的なことを知る。 ○事例をあげながら、SNSの正しい使い方について学習する。			4の(1) 公徳心 規則の尊重 権利・義務
7								
2	9	○自分たちの行動②	○自分たちの行動を振り返り、社会人としての役割や責任について考え、実践へとつなげることができる。		○自分たちの行動を振り返り、どのように行動すればよりよく社会で過ごしていけるか考える。			4-4) 勤労・ 社会奉仕
	10	○よりよい人間関係を築くために②	○謙虚な態度で他者の意見を受容し、適切な形で自分の意見や考えを伝えることができる。		○将来的にSNSは必要であるということを知り、正しい使い方を学び、便利なものとしての使い方を身に付ける。			4の(1) 公徳心 規則の尊重 権利・義務
	11							
12								
3	1	○家族への思い	○家族の一員として、家族を思い、進んで家族のために役立とうとする態度を育てる。		○自分の経験から家族の人への感謝を考え、家族の一員として家族のためにできることを考える。			4-5) 家族愛
	2	○将来のこと	○自分の将来について考え、理想の実現を目指して努力する。	○卒業後、仕事と余暇との気持ちの切り替えを行い、職業生活を送るよう心の準備をする。	4の(3) 役割と責任の自覚			
	3							

※授業形態 ①一斉 ②グループ ③個別

日 時：平成30年10月10日(水) 5校時

場 所：高等部3年1組教室

指 導 者：庄田 圭 (T1)

1 主題名 「情報社会での過ごし方」

2 資料名 「SNS などへの投稿内容から個人が特定」出典：平成29年度総務省調査研究「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値観

近年、現代社会では、情報化が進み、情報機器がなくてはならないものとして、生活の中に溶け込んできている。情報機器による人間関係のトラブルや犯罪等も増えてきており、情報モラルに関する教育の必要性が唱えられている。

このような社会変化において、本校高等部Ⅲ課程の生徒についても、スマートフォン（以下スマホと記載）等の情報機器を使用する生徒が多くなり、SNSを使った人間関係のトラブルは、ここ数年で多発するようになってきている。そのため、犯罪危険回避の方法やその際の具体的な行動方法など、情報モラルを中心として、正しい使い方を知らせながら、人間関係に必要な他人と協調し、自律的に社会生活を送ることができる実践力を身に付けさせることに繋げる必要があると考える。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、男子4人、女子6人の10人学級である。全員が、軽度の知的障害を有しており、特性の違いは多少見られるが、文章の読み取りや言葉でのやり取りなど、スムーズに行うことができる。スマホ等の情報機器を持っている生徒は、6名と学級の約半数である。しかし、スマホを保護者が管理している生徒は少なく、自分のものとして使用している生徒が多い。これから社会に出る高等部3年生において、現在使用していない生徒も今後使用する可能性は高く、正しい情報モラルを身に付けておく必要があると考えられる。また、これまでにスマホを持っている生徒においては、SNSを使用している中でトラブルがあり、そのため人間関係における支援・指導を行う機会もあった。

(3) 資料とその活用について

SNSは「誰でも簡単に使える」という手軽さの反面、プライバシー設定をしないと全世界に発信され、一度投稿した内容は簡単に消せないという怖さがある。しかし、このことについて、知らなかったり、知らずに使用していたりする生徒が多い。そのため、正しい知識を身に付け、意識を高めながら、SNSを使用することができるようになって欲しい。SNSの正しい使い方を知ることにより、SNSを通じた人間関係のトラブルも回避できるようになると考えられる。

今回の資料については、総務省の「授業で使える内容の事例集」を活用して取り組む。SNSのよいところ、使い方を間違えたときのリスクなどを用語の説明を取り入れながら、生徒ができる限り理解しやすいように授業を進めたい。また、授業を進める上で、SNSが人間関係のトラブルに繋がること

も意識付けしておきたい。そして、SNS を使う際に自分でどうすればよいか考える機会を多くもたせるようにして、少しでも日常生活に活かすことができるように学習に取り組ませたい。

4 本時のねらい

- 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動することが分かる。
- SNS の間違っただ使い方が、人間関係を壊すことにつながる事が分かる。
- 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもち、情報メディアとの関わり方やネットワークの公共性を意識して行動するようにする。

5 生徒の実態とねらい

	生徒の実態	本時のねらい	手だて・支援
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と身近でないことは、意識が低い傾向が見られ、話を聞いていないことがある。 ・ 自分専用のスマホは持っていないが、母親のものを借りることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違っただ使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 ○ 話を聞きながら、場面を想像して、授業に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話を聞いているか、時々確認しながら、授業を進める。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っている。これまでにトラブルに遭遇したことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違っただ使い方について分かり、自分で考えて使用することができる。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が理解できなくても、そのまましておくことがある。 ・ 自分専用のスマホを持っておらず、スマホへの興味・関心も薄いところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違っただ使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が理解できているか、時々確認しながら、授業を進める。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っている。これまでにトラブルに遭遇したことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違っただ使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っている。これまでにトラブルに遭遇したことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違っただ使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違っただ使い方について分か 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる限り、自分のことに置き換えて考えさせるように

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分専用のスマホを持っている。人間関係で指導・支援をされたことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> り、自分で考えて使用する意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> する。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っておらず、スマホへの興味・関心も薄いところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違った使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が理解できているか、時々確認しながら、授業を進める。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っている。人間関係で指導・支援をされたことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違った使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が理解できているか、時々確認しながら、授業を進める。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っている。これまでにトラブルに遭遇したことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違った使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	
J	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をよく聞いて、理解しようとする態度が見られる。 ・ 自分専用のスマホを持っていないが、興味・関心は高く、将来的に持ちたいという気持ちがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマホや SNS のよさと間違った使い方について分かり、自分で考えて使用する意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が理解できているか、時々確認しながら、授業を進める。

6 準備

- 資料—プリント3枚
- まとめプリント
- モニター
- パソコン

7 本校の他の教科との関連

- 家庭（一般）
- 職業
- 保健体育

8 展開

段階 時間	学習活動	発問等と予想される反応										指導上の留意点・支援
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
導入 8分	1 本時の始まり	○ Aが号令をかけ、その他の者は、姿勢を正す。										○ 学習に取り組む姿勢ができて いるか確認する。 ○ SNSとは何のことか、理解を 促す。 ◎ SNSは使い次第によって、 良いものにも悪いものにもなる ということを理解させる。 ○ モニターを使用して、視覚的 に提示する。
	2 学習内容を知る。 「SNSなどへの投稿内 容から個人が特定」 ・ SNSについて知る。	○ 学習内容を知らせ、本時の学習について理解する。 ・ 「SNSについて知ろう。」 ○ SNSの内容を知らせる。 ○ SNSは、世界中の人とのコミュニケーションツールになることを理解する。 ○ SNSは、人間関係においても重要なツールになることを理解する。 ・ A,C,G,Jについては、スマホ等も使用していないので、できる限り話の内容を 分かりやすく伝え、理解させる。										
展開 27分	3 学習内容を考える。 ・ SNSの良さについ て考える。 ・ 資料2を読み、SNS の怖さを実感する。 ◎ どう使えばよいのか、使 い方をどうすればよいの か。	○ LINEのよいところやFacebook、インスタグラム等のよいところについて考え させ、普及していることの意味を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">○ SNSを使うことは、非常に良いことなのだが…。</div> ○ SNSにより、投稿の仕方次第では、個人が特定できることを知る。 ○ SNSによって、犯罪につながってしまうこともあるということを知る。 ・ F,Hはこれまでにスマホで使ったことがあるので、改めて、SNSの怖さを知 り、使い方について理解させる。										○ インターネットの良さを伝 え、使うことに意味があるとい うことに気付かせる。 ○ 普段のやり取りが、インター ネットの世界では、犯罪につな がることを理解させる。

<p>終末 10分</p>	<p>4 学習内容を振り返る。 ・ 授業を振り返りながら、プリントにまとめる。 ・ まとめを発表する。</p> <p>5 本時の終わり</p>	<p>◎ 人間関係において SNS は必要なものになってきているということを知り、正しく使うことで、その機能を発揮するということを知る。</p> <p>○ 今回の授業内容を振り返り、自分なりの考えをもって、行動できるようになる。</p> <p>・ F,H が発表し、正しい使い方について、まとめをさせる。</p> <p>○ A が号令をかけ、その他の者は、姿勢を正す。</p>	<p>○ A,C,G,J については、スマホ等を使用していないので、今後使用する際に、今回の授業を生かせるように伝える。</p> <p>○ 姿勢を確認する。</p>
-------------------	---	--	--

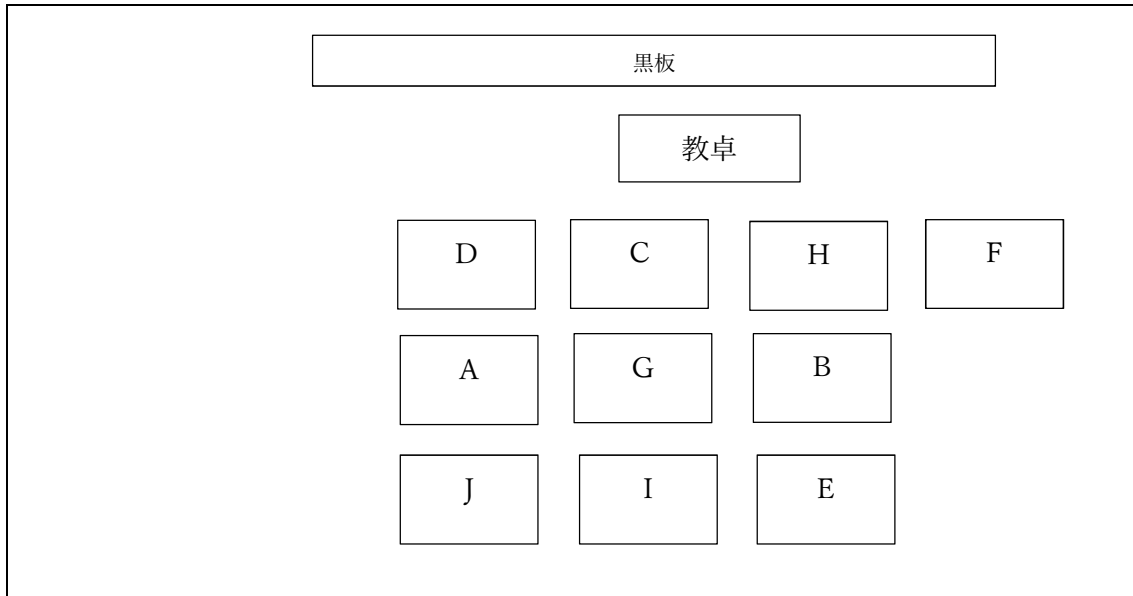
9 評価

氏名	評価の観点	特記事項
A	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、話の内容が分かったか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 意見を発表することができたか。	
B	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、内容が分かり、今後に活かそうとする姿勢が見られたか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 自分の意見を発表することができたか。	
C	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、話の内容が分かったか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 意見を発表することができたか。	
D	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、内容が分かり、今後に活かそうとする姿勢が見られたか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 自分の意見を発表することができたか。	
E	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、内容が分かり、今後に活かそうとする姿勢が見られたか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 自分の意見を発表することができたか。	
F	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、内容が分かり、今後に活かそうとする姿勢が見られたか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 自分の意見を発表することができたか。	
G	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、話の内容が分かったか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 意見を発表することができたか。	
H	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、内容が分かり、今後に活かそうとする姿勢が見られたか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 自分の意見を発表することができたか。	
I	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、内容が分かり、今後に活かそうとする姿勢が見られたか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 意見を発表することができたか。	
J	<input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、話の内容が分かったか。 <input type="radio"/> 教師や友人の話を聞いて、自分の考えをまとめることができたか。 <input type="radio"/> 意見を発表することができたか。	

10 事後指導

- スマホは便利であるが、人間関係でのトラブルにもつながるということを今後も伝えていく。
- まとめを教室に掲示して、生徒同士の考えを周知するようにする。

11 座席配置



- 1 自分が思った SNS のよいところを書いてみよう。

- 2 自分が思った SNS の悪い（怖い）ところを書いてみよう。

- 3 これからスマホを使っていくうえで、気を付けなければならないことを書いてみよう。

- 4 この授業で気が付いたこと、分かったことなどをまとめてみよう。

道徳資料

SNS のよいところ

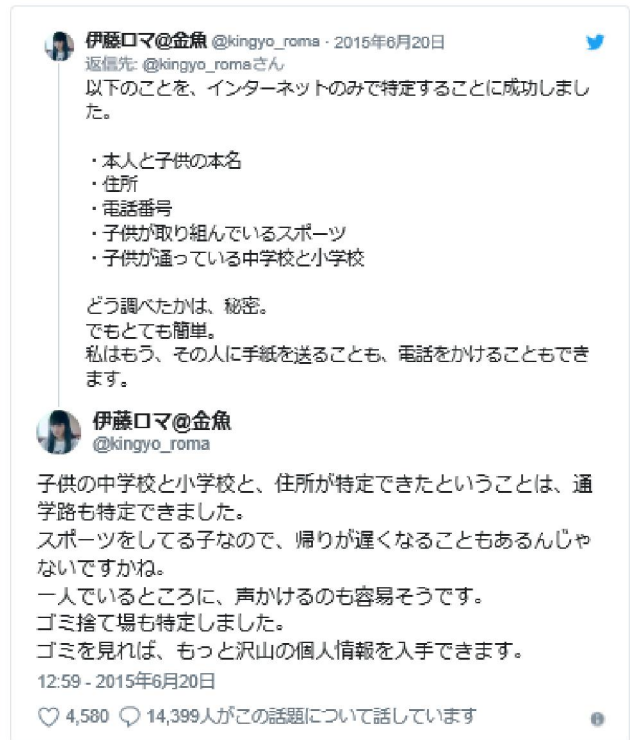
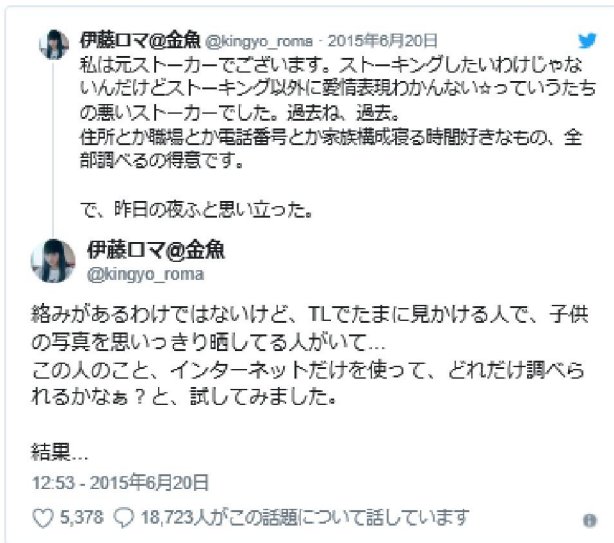
LINE のよいところ		
簡単にコミュニケーションが取れる	利用者がとても多い	既読機能がある
グループ機能やノート機能が便利	テレビ電話もできる	音声通話もできる
海外でも使える		
<p>LINE の良いところは、手軽にメッセージを送ることができるということです。また、海外にいても LINE を利用すれば、通話によって連絡を取ることができます。海外から日本の友達に連絡を取ろうと思うと、電話の場合高額な通信料がかかります。しかし LINE であれば、通信料をかけることなく、相手と通話をすることができるのでとても便利です。通話をするだけでなく、ビデオ電話機能を利用して相手の顔を見ることが出来るのも良いです。</p>		
<p>LINE はとにかく、手軽に連絡がとれるのがいいところかなって思います。人と簡単につながれるのでいいな～って思いますし、とにかく、連絡したいことをパッと送れるのでそこが便利です。それに、自分の個人情報とかあんまりお知らせしなくてもいいので、気軽に連絡交換もできるなって思います。名刺とかを持たなくても多くの人とつながれるのでそこもいいなって素直に思います。LINEのおかげで人と積極的につながれるようになったので手放せません。</p>		
<p>ラインはチャットで会話するように、リアルタイムで話しているような感覚が持てて、相手を身近に感じることが出来て良いです。相手とタイミングが合えば、ラインをしていてテンポよく会話が出来て、とても楽しいです。またスタンプがキャラクターものから無料のまで豊富にあり、どれを使おうかなと迷ったり、かわいいスタンプを送っていただくとうれしいきもちになったり。写真や動画を簡単に送り合えるのも、いつもとても楽しいです。</p>		
<p>ラインが良いと思う理由ですが、とても手軽であるという点だと思います。チャットのようにメッセージをやりとりすることが出来るので、メールのように送信する時間だったりなどが必要ないのが良いと思います。また既読がつかますので、相手を読んだかが分かるというのも魅力です。また、ラインでのトークは複数でも出来るというのが魅力だと思います。3人以上でも楽しくトークをすることが出来るツールはラインが一番便利です。</p>		
<p>一番いいところは、メール等よりも、よりリアルタイムで会話をするようにやり取りができることです。またそれを読んだかどうかの「既読」機能があることも LINE の嬉しい機能だと思います。写真や動画も同じ画面で簡単に送信できるしとっておきたいものはノート機能にUPしたり(会話で流れないので)、アルバムを作ってまとめてUPすることもできます。1対1だけでなく、グループを作れば加入した人すべてと同じ場所で話ができますし何人既読になったかもすぐにわかります。アルバムも、グループ全員がみられるのでいちいち一人一人に写真を送る、ということはないで済みます。</p>		
Facebook のよいところ		
実名登録制なので友達を見つけやすい	グループやイベントなどといった機能が充実している	
写真や動画などを多数アップロードできる	パソコンでもスマートフォンでも携帯電話でも利用できる	
<p>私が思う Facebook の良い点は人と繋がれるという点です。Facebook では自分の興味のあるもの、行った場所などの写真を投稿することができ、他の人に見てもらえることが出来るため、そこから新しい繋がりが発生すると考えられます。また芸能人の方が好きなブランドを使用した写真を投稿することによって大きな広告になると考えられます。このように Facebook を投稿する側ではなく、見る側にも大きな影響を与える事が出来るのが良い点だと私は考えます。</p>		
<p>Facebook の良い点は、その気になれば日本中、世界中の人と友達になれ、意見交換ができること、意見交換が進んでお互いが日常生活や出来事を知るようになり、実際に会ったことがないのに親友のような親密な関係になれることです。実際に会うこともあり、会ってみると一度も会ったことがないのにすでに知っている感覚は懐かしさに似た感覚で実際に会うことの素晴らしさを実感できます。 また公開・非公開グループの参加で普段では知り合うことができない先生や医師などの専門家が参加していれば貴重な意見を聞けたり交流ができます。大小関わらず会社や店舗など Facebook ページでホームページ代わりになるシステムは大変便利で利用者も多く、上手に運営で</p>		

できれば売り上げを上げることも可能です。

Instagramのよいところ	
簡単に写真をアップロードできる	世界中の人々と写真を共有できる
撮った写真を加工できる	ハッシュタグで簡単に写真を探せる
写真だけでなく動画もアップロードできる	実名制でないので気軽に始められる
他の SNS との連動も可能	写真メインなのでネガティブな投稿が少ない
<p>なんでも気軽に写真を投稿できるというのは Instagram の魅力でもあり大きなメリットでしょう。仲間内では勿論のこと見ず知らずの方の投稿により自分の知らない世界を見せていただけることに喜びを感じますし、好奇心をくすぐられ新しいことにチャレンジしようという気持ちにもさせてくれます。写真や画像がメインですので直感的に物事がわかるのがとても良いです。親戚などの知人同士で写真付きで近況を知らせ合うことにも活用しています。</p>	
<p>写真がメインなので、綺麗な写真が多く見ている飽きません。自分の写真も誰かに見られても印象に残るようにということを意識するようになり、今までよりも写真を撮る時に、こだわったり細かなところまで気を使うようになりました。ハッシュタグを使えば、同じ趣味の人の写真も検索しやすく、楽しさが倍増するようになりますし、勉強にもなります。芸能人や著名人もインスタをやっている人が多いので、ブログよりも簡単に見れるのもうれしい部分です。</p>	
<p>Instagram のいい所は、おしゃれな人や自分の興味がある人の画像を見ることでオシャレなことを知ることが出来て美意識が上がることだと思います。参考にして自分に取り入れることも出来るので勉強になります。また、飲食店などを調べたら美味しそうなお店が分かるので今まで行ったことのないようなお店に行く機会が増えたのでとても出かけるのが楽しくなりました。また、自分の自慢したいことを他の人に見てもらうことで楽しい気持ちになるのでとてもいいです。</p>	
<p>30 代前半の私の周りの友人の多くは Instagram を活用しており、遠く離れた友人や家族とも繋がれる点から人気を集めています。まずは写真を投稿するだけで良いため、非常に簡単に SNS へアップでき、友人や時には知らない人からのコメントを見て楽しむ事が出来ます。近況報告を SNS 上で行う事で、今の自分を発信出来るメリットもあり、離れた家族も定期的に見てくれています。疎遠になりがちな遠く離れた友人とも Instagram で繋がる事で長期的な関係性の構築が出来るのも魅力の一つと言えるでしょう。</p>	
<p>Instagram の良い点は、世界中の人たちとコミュニケーションを取ることができる。Instagram を介さなければ出会えなかったような人たちとの出会いがあるのは、やはり素晴らしいと思います。もちろん英語の基礎ができることが前提ですが。また今までに全く知ることもなかった国や場所などの感動的な写真を見ることが出来るのは本当に刺激があって楽しいです。ちょっとした隙間時間を潰すのに、Instagram をのぞけばあっという間に時間が潰れるのも良いです</p>	

○ ある「ブログ」より

自身で「元ストーカー」と名乗る Twitter ユーザー伊藤ロマ@金魚(@kingyo_roma)さんは「個人の特定は簡単」と警鐘を鳴らしています。



「どこから個人を特定されるか分からない。だから SNS には細心の注意を払ったほうがいい」大半のインターネットユーザーにとっては至極当然のことと思います。

しかし中には「そこまで気をつけなきゃいけないものかなあ」と思っている方もいるでしょうし、Twitter での迷惑行為や未成年の飲酒等によるさまざまな炎上（いわゆるバクッター）を見ていると、SNS は「身近なもの」になりすぎてその怖さが分からなくなっているのかもしれない。

○ SNS でのモラルについて

- ① 不用意な投稿の積み重ねが原因
- ② 自室内は整理をしてから撮影する
- ③ 窓から見える景色は写さない
- ④ 自宅、職場など近隣の情報は出さない

○ 被害に合わないために

- ① スケジュールは公開しない
- ② 旅行の思い出は帰宅してから

道徳資料

これらの一つでもやってしまっただけではいけないという訳ではありません。積み重ねが原因に繋がりますので、投稿する前に本当に投稿してよいのかを今一度確認するだけでも予防になるでしょう。SNSの利用にはリスクが伴うということを今一度意識しましょう。

9 高等部作業学習研究班

ア 研究のねらい

平成29年4月、特別支援学校（幼稚部・小学部・中学部）の新学習指導要領が告示された。平成30年12月21日には、高等部の学習指導要領案が公示された。

本校高等部の作業学習体系は、前回の全面改訂より8年を経過している。そこで、新学習指導要領の方向性を把握し、これまでの高等部作業学習の評価改善を行うことで、生徒がより一層主体的に取り組める新しい作業学習のあり方を見出していきたいと考え、本研究班を設定した。

イ 研究の内容

(1) まず、全職員を対象に、現在の高等部作業学習に関してどのような印象を持っているか、改善すべき点や改善策はないか等について、アンケート調査を行った。自由記述によるアンケートであったので、『テキストマイニング』という手法を用いて集約を行った。

(別紙資料《表1 高等部作業学習アンケート集約結果》参照)

(2) 次に、全国の興味深い作業学習の実践事例を、個人調査・班内発表の形式で行った。

(3) 最後に、①と②の研究成果を生かし、自由創作『あったらいいな こんな高等部作業学習』を考案した。もし私達研究班が、新設された支援学校高等部で作業学習創設の実行委員会となったら、と仮定し、自由なアイデアで高等部作業学習の全体構想を創作した。

(別紙資料《表2 『あったらいいな こんな高等部作業学習』》参照)

ウ 成果と課題

(1) 成果

- 「高等部作業学習アンケートの実施・集約」により、本校職員が考える、高等部作業学習の改善策や印象等の概要を把握することができた。
- 「全国の作業学習の実践事例の調査・発表」により、先進的な取り組みや地域の実情を興味・関心をもって知ることができた。
- 『あったらいいな こんな高等部作業学習』草案の作成により、自由な発想での高等部作業学習の構想を深め、一次案としてまとめることができた。

(2) 課題

- 高等部新学習指導要領については、引き続きその動向を見守っていく必要がある。
- 実際に、高等部作業学習の見直し・改編が必要になった場合は、高等部会において、高等部職員による綿密な共通理解が必要である。
- 同様に、他学部職員へも、高等部作業学習に対する考え方を周知していく必要がある。

※ 参考文献・参考資料

- ・『User Local テキストマイニングツール』（最終閲覧日：2019年1月28日）

<https://textmining.userlocal.jp/>

- ・『特別支援学校高等部学習指導要領案』（最終閲覧日：2019年1月28日）

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185001024&Mode=0>

10 寄宿舎研究班

ア 研究のねらい

平成 29 年度までの 3 カ年において、生活支援計画の作成および改善を進めてきた。その過程で、生徒の抱える課題の多くが、主体性や社会性であることに改めて気づかされた。そして、それらの領域に対する指導・支援をより強化していくためには、「現在の寄宿舎での活動を見直すこと」、「職員のスキルアップを図ること」が必要であると考えた。

イ 研究の内容

(1) 主体性、社会性の共通理解

- ① 事前アンケート「主体性、社会性のイメージ」を実施する。
- ② 棟職員会において、複数の参考文献を用い、さまざまな視点から見つめ直す。
- ③ 事後アンケート「参考文献を読んでみて」を実施し、寄宿舎全体で共有する。

(2) 各棟での活動の見直しと改善案の検討

- ① 現在行っている活動について、主体性や社会性を育む観点から見直す。
- ② 各職員の経験を共有する機会を設定し、改善案の検討に役立てる。
- ③ 見直しをするに当たり、情報共有をしやすいような共通の書式作成を行う。

(3) 寄宿舎研修の実施

- ① 校長講話「寄宿舎の役割」を依頼し、寄宿舎のこれまでの歩みや役割について講義をしていただくとともに、共通理解を図る。
- ② 本校指導教諭 仲本先生に、講義「子ども達の問題行動を読み解く！」を依頼。その後、「事例検討会」をグループワーク方式で実施し、事例検討の方法および行動の読み解き方の実際について、ご指導をいただく。
- ③ 校内の電子掲示板「グループセッション」を活用し、研修情報の発信を行う。

ウ 成果と課題

<成果>

- 主体性、社会性について、改めて考える機会を持つことができた。
- 行事の見直しをしたことで、より生徒の実態に応じた内容を計画することができた。
- 各職員の経験の違いからくる「多様な見方や考え方」を大切に話し合うことや、普段の指導や支援を「振り返る」ことを通し、知識や技能を深めることができた。
- 話し合い時に使う共通の書式を作成する過程で、話し合いの観点を絞ることができた。
- 研究や自己研鑽に関する資料の保管場所を、目に止まりやすい場所にするすることで、情報共有やスキルアップに対する意識が高まるよう改善できた。

<課題>

- 生徒の活動を振り返る際、振り返る活動や期間を限定しなかったことで、ゴールイメージが抽象的になった。取り組みやすいように枠組みを決め、焦点を絞る必要がある。
- 棟単位で進める形にしたため、他棟の動きが見えづらかった。進捗状況や進め方について、全体で共有できる機会を増やすとともに、効率の良い方法を考えていく必要がある。
- 交代制勤務という中での研究や研修の進め方について、更に工夫が必要である。

IX 研究のまとめと今後の展望

今年度から新しい研究主題による研究がスタートした。特別支援学校小中学部の新しい学習指導要領が紙媒体で出され、先ほど高等部のものについてもウェブ上で公開された。新しく取り組む研究については、この新しい学習指導要領をもとにして進められている。

今年度の研究全般については、これまで取り組んできたものを、新しい学習指導要領の内容、とりわけ「主体的・対話的で深い学び」の視点で整理していくことが中心となった。本校はこれまでも貴重な取組が蓄積されており、この度の取組によって、より児童生徒の学びを深化させることにつながると考えられる。

今年度の研究への取組としての成果と課題は、以下のとおりである。

【成果】

- 新しい学習指導要領の施行に伴い、学習内容や年間指導計画の見直しが進んだ。
- 研究授業が少なかった分、じっくりと理論研究を進めるチームが多かった。
- 新しい学習指導要領に関連した研修（研修センターのサポート事業）を実施できた。
- これまでの年間指導計画や教材等の検証や整理が進んだ。

【課題】

- 高等部は、新学習指導要領が出る直前なので、今後研究内容についての検証が必要である。
- 授業研究の方法について、研究部が提案した授業研究マニュアルを検証する必要がある。

次年度からは、今年度整理した内容や新たに作ったものを活用して、授業研究を中心とした検証段階となる。またその際、課題でも挙げた「授業研究マニュアル」を再度周知させる必要もある。これは、授業を提供する職員に対して学習指導案作成や授業の準備の負担を軽減させるものであり、研究への取組を役割の偏りなく、全員で取り組めるように研究部が提案したものである。

「研究のまとめ」の完成に先立って、各班の取組について全体報告会を実施した。その中で次年度以降の取組において充実を期待したいことがあったので、以下に記述する。

- 検証授業において、児童生徒の「主体的」な活動や学びの視点についての明確な提示
- 段階表や評価表について、検証の場、方法の提示
- 児童生徒の学習の場面において、教師が過干渉になってしまうことについての原因の検証
- 授業改善の手立て（例えば中学部のPDCAサイクルシート等）の活用についての検証
- 実態から改善・克服を図る場合、児童生徒が「主体的」に取り組むための手立ての検討
- 職員同士の対話を重視した研究への取組

次年度より、研究主題「児童生徒の主体的に学ぶ力を育てる指導・支援の在り方」にもあるよう、児童生徒の学びについて「主体的」という視点で授業改善を行っていくことが中心となる。また、児童生徒への指導・支援のみならず、我々職員も一層「主体的」な研究への取組が行われ

ると、成果は大きくなると考える。

研究は時に思い悩むこともあるが、そういう時こそチームみんなで話し合い、知恵を出し合いながら研究を進めていくことが大切である。働き方改革の観点からも、「誰かがやってくれる」という期待感よりも「自分にできることは何か」「力を合わせて取り組もう」という意識を共有することで、不安感や負担感も解消されると考える。研究班で、学年で、学部で、学校で様々な区分を越えて関わりをもち、前向きな議論を行いながら研究を進めていければ幸いである。